

広島市植物公園 見どころ案内

2023年10月1日
通巻第597号

今週の
見どころ案内
掲載植物
現場にはこの表示
がしてあります。

展示会のご案内

- ◇展示資料館 (9/23~10/19)
ボタニカルアート作品展
- ◇展示資料館 ロビー (10月中旬まで)
牧野富太郎博士のパネル展示
- ◇展示温室 (9/2~10/1)
薬用植物展
- ◇展示温室 (10/7~10/22)
サボテン・多肉植物展

ヒガンバナ (ヒガンバナ科)

中国原産。秋の彼岸(秋分の日前後)に咲くのが和名の由来ですが、今年は暑い日が続き開花が遅れました。現在は園内の各所で見るができます。

トゲオニソテツ (ザミア科)

大きな雌花が咲いています。ソテツの幹や種子は食用にされることもあります。有毒な成分を含むため十分な処理が必要です。

ハトラン (ラン科)

中南米原産。パナマの国花。花の形が飛翔する鳩に見える。学名のペリスティアも「小さなハト」の意味。

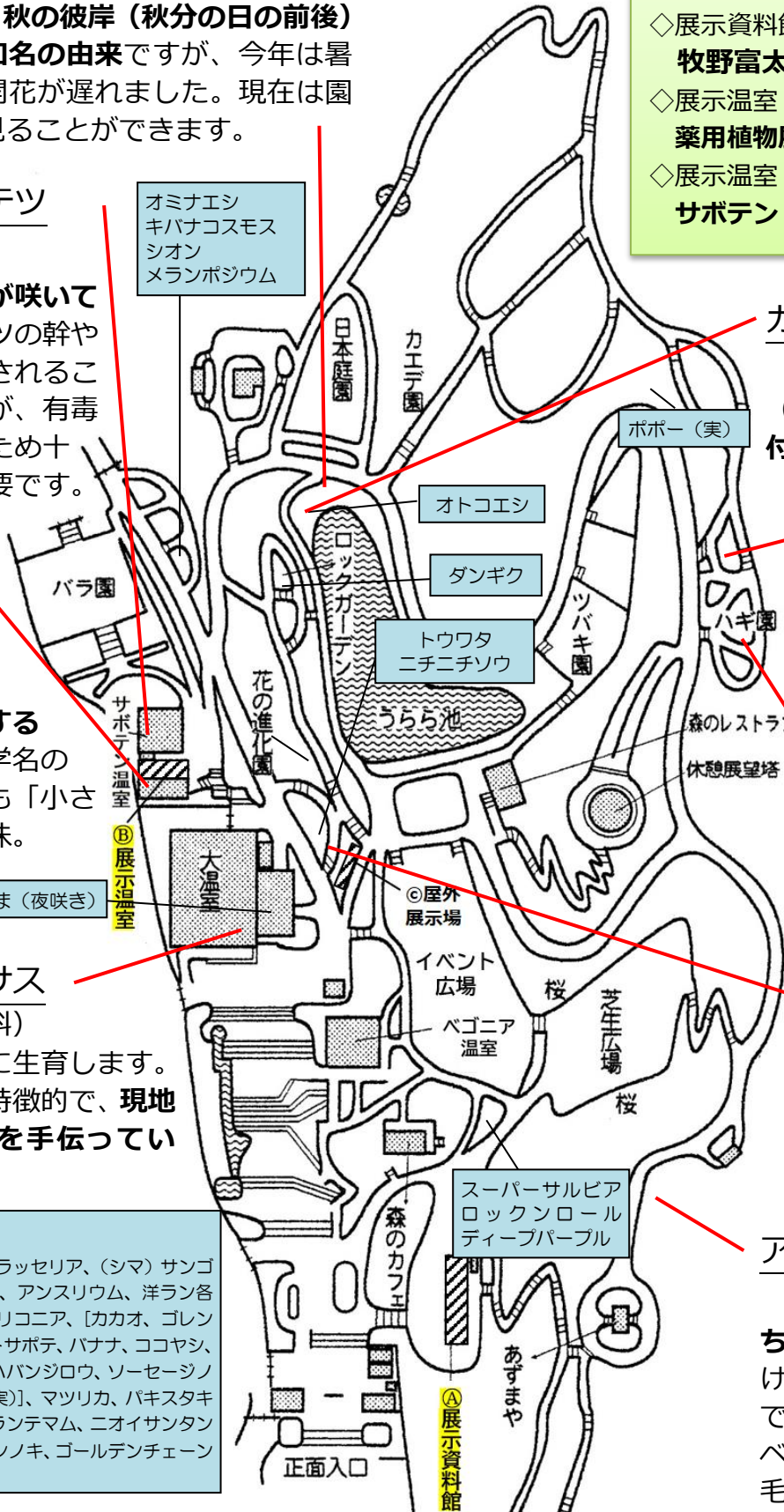
エスキナンサス (イワタバコ科)

東南アジアに生育します。鮮やかな花が特徴的で、現地では鳥が受粉を手伝っています。

★大温室で見頃の花

(赤花) サガリバナ、ラッセリア、(シマ) サンゴアナナス、グスマニア、アンズリウム、洋ラン各種、ムッサエンダ、ヘリコニア、[カカオ、ゴレンシ、コショウ、ホワイトサボテ、バナナ、ココヤシ、パキラ、レンブ、テリハバンジロウ、ソーセージノキ、コーヒー(以上は実)、マツリカ、パキスタキス・ルテア、フセウドランテマム、ニオイサンタンカ、チャボイランイランノキ、ゴールドンチェーンツリー

オミナエシ
キバナコスモス
シオン
メランポジウム



カリガネソウ (シソ科)

東アジア原産。花の形が雁(かり)に似ているとして名付けられました。

ハナセンナ (マメ科)

黄色の可憐な花を咲かせます。ブラジル・アルゼンチンが原産で、別名はアンデスの乙女。

フジバカマ (キク科)

秋の七草の一つ。奈良時代に中国大陸から帰化したといわれており、アサギマダラが吸蜜に訪れることで知られています。

ワタ (アオイ科)

ワタの実が成熟しています。私たちが普段使用している綿は、種子から伸びています。長い毛を綿毛、短い毛を地毛と呼びます。

アベマキ (ブナ科)

丸いどんぐりが通路に落ちています。クヌギとの見分け方について、どんぐりだけでは判別が難しいですが、アベマキの葉は裏が白っぽく、毛が密生しています。

❀ 毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します ❀
❀ 10/7、10/24 午前11時~は、職員による植物うんちく語りを実施します ❀